

市町村職員等在宅医療・介護連携基礎研修

平成28年11月28日
盛岡会場

在宅歯科医療について

一般社団法人岩手県歯科医師会 口腔保健センター運営委員
一般社団法人盛岡市歯科医師会 理事(地域歯科保健担当)
かど歯科クリニック 院長

歯学博士 米村武英
miyabuchi W

本日の内容

- 在宅歯科医療について
 - 在宅歯科医療の具体的内容
訪問歯科診療で可能な診療内容とそれによる改善とは
 - 在宅歯科医療の利用方法
FAX連携のご紹介
歯科医師との連携の仕方
医療保険と介護保険の使い分け
- 歯科と介護の連携について
寝食・嚥下のメカニズムと摂食・嚥下障害とは
高齢者に多い全身疾患と有病者に求められる口腔ケア
摂食・嚥下リハビリテーションについて

食べる楽しみ

要介護高齢者の日常生活における関心事

	1位	2位	3位
特居型介護老人ホーム	食事 44.6%	行事参加 28.0%	家族訪問 25.3%
老人保健施設	食事 48.4%	家族訪問 40.0%	行事参加 35.2%
老人病院	食事 40.0%	家族訪問 39.4%	テレビ 28.3%
療養型病院	食事 55.1%	家族訪問 55.1%	テレビ 30.0%

1、在宅歯科医療について

(1)在宅歯科医療の具体的内容

歯科訪問診療ってなに？


身体的、精神的理由で
歯科診療所に通院できない方に対し、
歯科医師、歯科衛生士が
自宅や介護施設、病院等に訪問し、
歯科治療や専門的口腔ケアを行うこと。

在宅で出来ること

- ・歯科治療
- ・口腔ケア
- ・お口のリハビリテーション

口腔機能について


- 食べる機能
- 話す機能
- 呼吸する機能
- 表情を表す機能
- 防衛免疫の機能
- 脳の活性化する機能



京千両歯科医師会

口腔機能が低下すると

- 食べる機能 → 味覚障害、嚥下障害、窒息、低栄養、誤嚥性肺炎
- 話す機能 → コミュニケーションの低下、閉じこもり
- 呼吸する機能 → 呼吸不全、肺炎、自立低下
- 表情を表す機能 → コミュニケーションの低下、閉じこもり
- 防衛免疫の機能 → 易感染
- 脳の活性化する機能 → 認知症



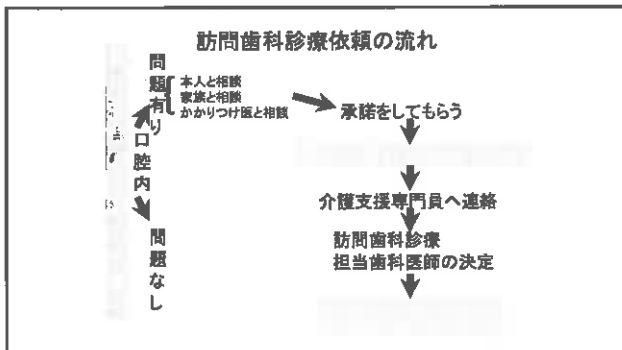
京千両歯科医師会

「口腔ケアの目的」

- むし歯、歯周病の予防
- 口臭の予防
- 味覚の改善
- 唾液分泌の促進
- 誤嚥性肺炎の予防
- 会話などのコミュニケーションの改善
- 生活のリズムを整える
- 口腔機能の維持・回復

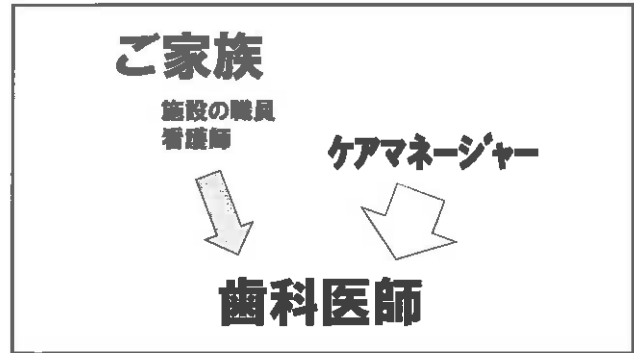
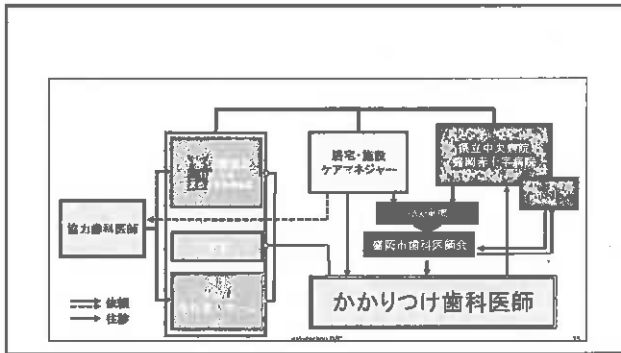
本日の内容

- 在宅歯科医療について
 - (1)在宅歯科医療の具体的内容
 - 訪問歯科診療で可能な診療内容とそれによる改善とは
 - (2)在宅歯科医療の利用方法
 - FAX連携のご紹介
 - 歯科医師との連携の仕方
 - 医療保険と介護保険の使い分け
- 歯科と介護の連携について
 - 摂食・嚥下のメカニズムと摂食・嚥下障害とは
 - 高齢者に多い全身疾患と有病者に求められる口腔ケア
 - 摂食・嚥下リハビリテーションについて




要介護の方の口が



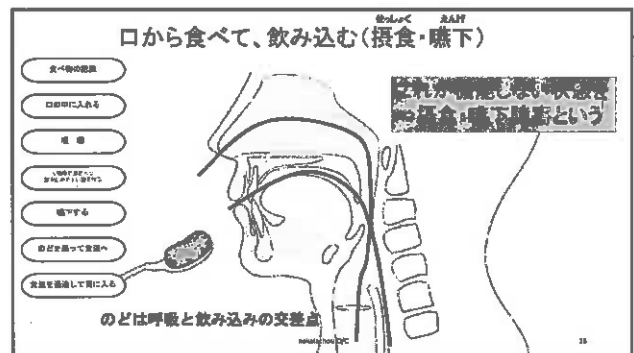


基本、すべて保険の範囲内で治療出来ます。

- ・介護保険(居宅のみ)
 居宅療養管理指導
 ※介護保険が優先
- ・医療保険
 交通費は実費徴収の場合有り

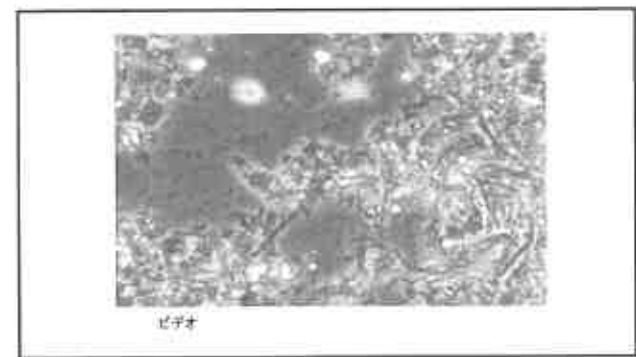
本日の内容

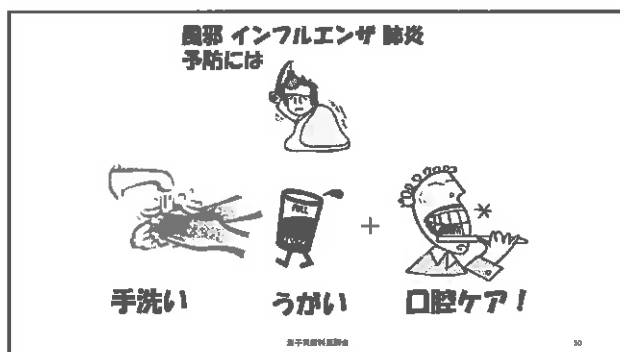
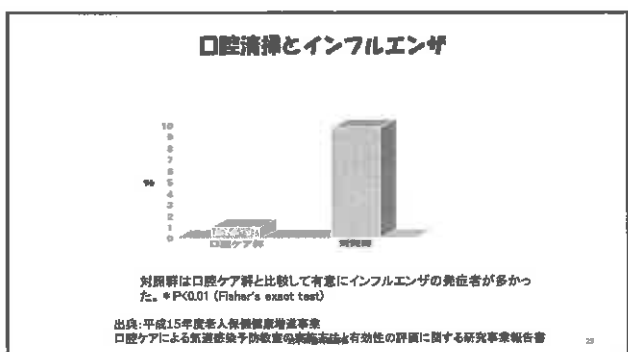
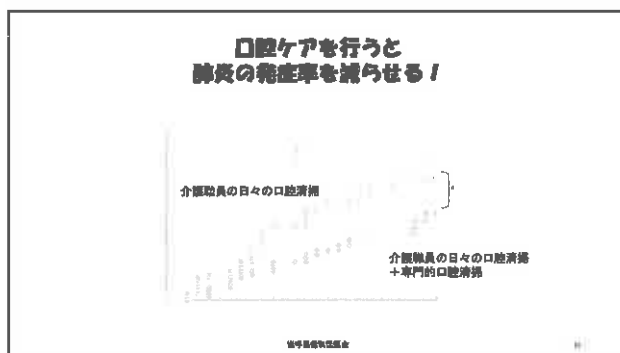
- 在宅歯科医療について
 - 在宅歯科医療の具体的な内容
 訪問歯科診療で可能な診療内容とそれによる改善とは
 - 在宅歯科医療の利用方法
 FAX連携のご紹介
 歯科医師との連携の仕方
 医療保険と介護保険の使い分け
- 歯科と介護の連携について
 摂食・嚥下のメカニズムと摂食・嚥下障害とは
 高齢者に多い全身疾患と有病者に求められる口腔ケア
 摂食・嚥下リハビリテーションについて





高齢者の肺炎は口腔内の菌で起こる
 65歳以上の方の約半数が夜眠っている間に
 唾液を肺に飲み込んでいる
 肺炎での死亡の92%が65歳以上である

 A diagram of a human head and neck in profile, showing the path of saliva from the mouth down the esophagus and into the lungs. Labels indicate '口腔からの吸入→肺炎' (Aspiration from mouth to pneumonia) and '唾液への吸入→肺炎' (Aspiration of saliva to pneumonia).






摂食・嚥下障害を疑うポイント

- 食事中におせることがある
- 食事中の声の変化
- 食後の咳
- 肺炎を繰り返す

日本老年病学会

高齢者は摂食・嚥下障害が起こりやすいが
 高齢者では解剖学的に喉頭が下がる

20歳代 男 10mm 70歳代
 女 4mm 下がる

首の周囲の筋肉を鍛えなければならぬ

深呼吸と膈の運動

息を吸って 膈を上げる
 息を吐いて 膈を下げる

日本老年病学会

首の運動

首の回転 首の横傾し

日本老年病学会

口の運動

頬を膨らます 口をすぼめる 口を大きくあける

日本老年病学会

舌の運動



・上がり舌



下がり舌



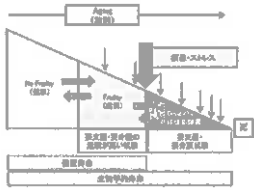
ぐるっと回して
右(左)の舌

※平野浩彦先生提供

「口腔ケアの効果」

- 1) 食べる意欲の改善
- 2) 栄養状態の改善
- 3) 認知機能の維持・回復(痴呆予防)
- 4) 誤嚥性肺炎のリスクの回避

虚弱を「フレイル」と日本老年医学会が提唱



フレイルの定義

- ① 筋力が弱くなる
- ② 睡眠障害さらに日常生活がおっくうになる
- ③ 活動量が低下すること
- ④ 歩行機能が低下
- ⑤ 体重が減少

1~2つ当てはまると「前虚脱」
3つ以上が「虚脱」

フレイルの悪循環

身体の
ささいなトラブル
→ 体力・筋力の低下
→ 判断力・認知機能の低下

・人と接する機会減少
・食生活のバランス低下

買い物に出るのもおっくうに
活動性低下

オーラル・フレイルとは？

お口の
ささいなトラブル
の気づき

口の不開の放置
かめない

「食べやすさ」で
食べ物を選ぶ

かむ機能の低下

軟らかい食べ物

食欲の低下

(出典) 平野浩彦 高齢者を
知る事科 2000年

機能低下への悪循環

お口の中の放置

噛み砕けい

食べやすさのものを
提供する

咀嚼機能低下

軟らかいものを
食べる

食欲の低下

※ 平野浩彦先生提供

『オーラルフレイル』を理解して、
健康長寿を目指しましょう。

オーラルフレイルは、滑舌低下、食べこぼし、わずかなむせ、かめない食品が増えるなどのささいな口腔機能の低下から始まります。早めに気づき対応することが大切です。これらの様々な口の衰えは身体の衰え(フレイル)と大きく関わっています。
歯科医師は、「8020運動」に『オーラルフレイル』という新たな考え方を加え、健康長寿をサポートしてまいります。

「食べることは生きること」

最期まで口から
食べることをあきらめない

健口から健康へ

口腔機能の向上は、
活動的な高齢者を作るために
大切なことです



ご清聴ありがとうございました